

5

地域計画

5

地域計画

①基本的な考え方

世田谷区は、平成3年(1991年)4月、地域行政制度*をスタートしました。

以来20数年、「打てば響くまちづくりをめざして」さまざまな取組みがなされ、地域行政は88万都市世田谷を支える大きな幹に成長しました。

地域計画は、これまでの地域行政の展開の実績に基づき、地域からの発想により、地域の特性・個性を踏まえて、その将来像を描き、地域における計画を明らかにするものです。

②地域計画について

各地域の特性と地区におけるまちづくり活動の目標(地区ビジョン)を踏まえ、めざしていく将来像(まちの将来像)を明らかにしています。また、基本計画の分野別政策等と整合を図り、推進します。

③構成

①地域の特性

地域の歴史経緯と現状、地域の構造、土地利用、道路・交通、人口、区民活動などの要素を整理し、地域の特性を明らかにして、地域の主要課題を記載しています。

②まちの将来像

地域としてめざしていく将来像と取組みの方向を記載しています。

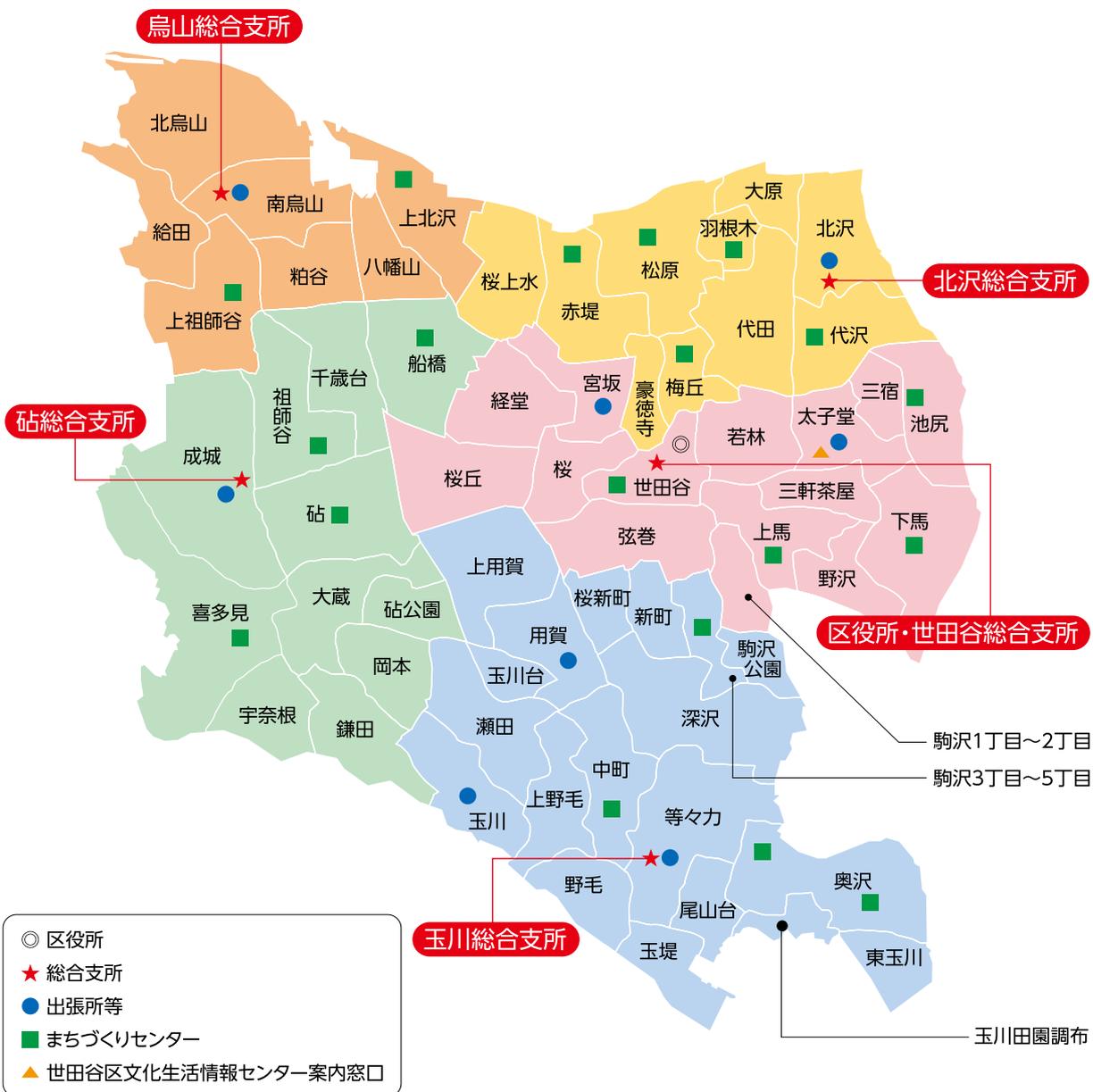
『地区におけるまちづくり活動の目標(地区ビジョン)』を紹介します。

地区ビジョンとは、地域計画の検討にあたり、各地区において、まちづくり活動等を行っている団体等の議論を経てまとめられた、今後10年間に地区として、めざしていくまちづくり活動の目標です。

各地区における活動団体は、地区ビジョンの実現に向けて、連携しながら取組みを進め、区は実現に向けて支援を行います。

※地区は、出張所・まちづくりセンターの管轄する27の区域を指し、各地区名の横の< >内は町名を記載しています。

世田谷区全図



世田谷区全域及び各地域の面積・人口・世帯数・みどり率*

	面積(km)	人口(人)	世帯数(戸)	みどり率(%)
世田谷区全域	58.084	867,552	451,965	24.60
世田谷地域	12.333	237,868	131,540	16.67
北沢地域	8.645	144,287	82,431	17.06
玉川地域	15.820	215,139	105,940	26.48
砧地域	13.566	156,425	73,103	33.74
烏山地域	7.720	113,833	58,951	25.80

※平成26年1月1日現在の住民基本台帳人口(人口・世帯数)及び平成24年2月現在のみどり率

世田谷地域



■面積: 12.333km²

■人口

	平成26年 (2014年)		推 計	
	区全体	地域	平成30年 (2018年)	平成35年 (2023年)
総 数	867,552人	237,868人	235,405人	237,652人
年少人口 (0~5歳)	42,699人 (4.9%)	11,097人 (4.7%)	11,408人 (4.8%)	11,226人 (4.7%)
年少人口 (6~14歳)	57,378人 (6.6%)	13,813人 (5.8%)	14,651人 (6.2%)	16,407人 (6.9%)
生産年齢人口 (15~64歳)	597,907人 (69.0%)	167,814人 (70.5%)	162,049人 (68.8%)	162,552人 (68.4%)
高齢者人口 (65歳~)	169,568人 (19.5%)	45,144人 (19.0%)	47,296人 (20.1%)	47,468人 (20.0%)

※平成26年1月1日現在の住民基本台帳人口及び世田谷区将来人口の推計(平成26年2月)

※推計値は表示単位未満を四捨五入しているため、総数と年齢階層別人口の合計が一致しない場合がある。

地域の特性

地域のなりたちと姿

世田谷地域は区の東部に位置し、区役所をはじめ税務署・登記所・都税事務所等があり、区の行政上の中心となっています。

この地域は室町時代から吉良氏の領地であり、江戸と小田原を結ぶ交易の地として、大山道沿いに街並みが発展してきました。三軒茶屋は、現在の世田谷通りと国道246号線の三叉路のあたりにあった、三軒の茶屋に由来し、今でも世田谷地域の商業の中心地となっています。

区役所の周辺は幕末の思想家・吉田松陰を祀った松陰神社、上町駅の近くには江戸時代の彦根藩世田谷領の代官の住宅(代官屋敷)があるなど、歴史がしのばれる地域です。

また、源頼朝の乗った馬にまつわる「馬引沢伝説」や、世田谷城主・吉良頼康の寵愛を受けながら、悲しい最期を遂げた常盤姫の「さぎ草悲話」など伝説が残る地でもあります。

江戸時代、世田谷区の地域は幕府領や彦根藩の飛び地でしたが、明治以降、東京府に移管され、明治22年(1889年)の町村制施行により、現在の世田谷区の基盤となる6村体制が確立しました。このうち世田谷村と駒沢村の多くが、現在の世田谷地域へと引き継がれています。

環状7号線の東側は、大正から昭和にかけて農地が宅地化され、郊外型ベッドタウンのはりとなった地域であり、古くからの木造住宅が密集する市街地が広がっています。西側は一部で農地もみられる一般的な住宅地となっていますが、近年は、宅地の細分化や中高層マンションの建設が進んでいます。

暮らしの姿

平成26年(2014年)1月1日現在で、約23万8千人と、区内5地域のなかで人口が最も多く、人口密度も最も高くなっています。

世田谷地域は都心から近く、流出入率の高い20代から30代の単身世帯が多いという特徴があります。今後転入などの社会増により、しばらく緩やかな人口増加が見込まれるとともに、高齢化が急速に進むと予測されています。近年では出生数も増加しており、保育サービスをはじめ、子育て環境の充実も課題となっています。

古くから宅地化が進んだ木造住宅密集地域では、都市基盤が未整備で老朽化した建物も多く、防災性の向上をめざし、市街地の不燃化や災害時の避難経路の確保、延焼防止のための道路の整備を進めています。

みどりの貴重な資源である民有地の緑や農地は減少する傾向にあり、世田谷地域のみどり率は、区内の5地域の中で最も低くなっています。また、世田谷地域の1人当たりの公園緑地面積は区の平均を下回っており、地域内でのみどりの保全・創出が課題となっています。

地域内には首都高速3号線、玉川通り、環状7号線、世田谷通りの幹線道路が通っており、道路網の骨格を成していますが、高齢化が進む地域にとって、横断歩道の整備など、日常生活での移動のしやすさが課題となっています。

目黒通りと甲州街道を結ぶ補助第154号線の整備が進められており、不足している南北交通の強化を図るため、バス路線の導入が課題となっています。

にぎわいと地域の活動

事業所、従業者数ともに5地域で最も多く、小売や飲食業をはじめ、事業活動が活発に行われています。

三軒茶屋や経堂、松陰神社前など、駅を中心に発達している商店街は、従来から地域のコミュニティ空間としてもにぎわいを見せています。国道246号線沿いの三宿交差点付近では、個性的な店が集まり、新たなにぎわいを生み出しています。また、三軒茶屋には「音響家が選ぶ優良ホール100選」に選定された世田谷パブリックシアターがあり、全国から人々が訪れています。

代官屋敷周辺では、戦国時代の楽市を由来とし、430年もの伝統を持つ「世田谷のボロ市」が開催され、冬の風物詩となっています。大正14年(1925年)に開通した世田谷線は、区民の身近な乗り物として親しまれ、沿線イベントとして「萩・世田谷幕末維新祭り」「三茶de大道芸」などが行われており、世田谷公園で開催される「環境ネットフェスタ」、「経堂まつり」等のイベントも定着し、区外からの集客もあるなど、大きなにぎわいを生んでいます。

青年層の参加が少ないという課題がありますが、世田谷地域内46町会・自治会をはじめ、多くの人々のかかわりを得て地域活動が展開されています。子どもから高齢者までの支えあいネットワークづくり、地区ごとの避難所運営訓練や防災訓練なども、それぞれ工夫しながら進められています。また、地域内には多くの大学があり、学校と地域が災害時協定を結ぶなど、防災活動などを通じて連携を深めています。

まちの将来像

世田谷の歴史と文化を大切にし、 交流とにぎわい、活力のあるまち

- 多様な世代が交流する豊かな地域コミュニティを形成し、次世代に継承できるまちをめざします。
- 「世田谷のボロ市」をはじめとする地域の祭りやイベントなど賑わいを大切にします。
- 学生など多くの若者の力を活かし、多様な世代が、ともに地域活動に参加するまちをつくりまします。
- 歴史に親しみ、文化・芸術活動をとおして創造性豊かなまちをつくりまします。
- 快適で便利な、活力ある商店街を大切にします。

安心して豊かな気持ちで暮らせるまち

- 区民のだれもが、身近な地域で安心して相談し、適切な支援が受けられる地域包括ケアシステムの構築に取り組みまします。
- 子どもが健やかに育つよう、身近な地域で、相談や見守り、支えあいのネットワークをつくりまします。
- 障害者や支援の必要な高齢者が、地域で安心して暮らせるよう、地域福祉サービスの充実を図りまします。
- あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、町会・自治会、民生・児童委員、医療機関、サービス事業者、NPO、ボランティアなど、福祉・保健や見守り・助け合いの地域ネットワークを築きまします。

- 緑道など地域の資源を活用し、地域の交流の中で区民が主体的に健康づくりに取り組むまちをつくりまします。

災害に強く安全で、 いつまでも住み続けたいまち

- 地域の絆を大切にし、いざという時に助け合えるまちをつくりまします。
- 日ごろからの防犯活動や実践的な防災訓練、避難所運営訓練を実施し、犯罪のないまち、災害に強いまちをめざしまします。
- 区役所周辺や太子堂・三宿地区などの木造住宅密集地域や三軒茶屋駅周辺地区の不燃化や建物の耐震化をはじめ、道路や公園などの基盤整備も着実に進め、災害に強い街をつくりまします。
- 民有地の緑化を進めるなど、一人ひとりがみどりを大切にし、みどりの保全・創出を図り、潤いのあるまちをつくりまします。
- 安全な歩行空間と自転車の走行環境の整備を進めるとともに、バス路線の充実を図るなど、快適で移動しやすいまちをめざしまします。

地区ビジョン

太子堂地区

- 『住んでよかったまち太子堂・三軒茶屋』から、
『住み続けたいまち太子堂・三軒茶屋』へ
- 教訓を活かした安全・安心の基盤づくり
 - 多世代交流による太子堂・三軒茶屋の元気づくり
 - 自分のまち、太子堂・三軒茶屋を好きになる環境づくり

池尻地区

- 災害に強い助け合いのまち
- 犯罪のない安全安心のまち
- 支えあいのやさしいまち

若林地区

- 未来を担う若い世代を育み、笑顔がはじけるまちづくり
- 誰もが助け合い、安心安全で心豊かに暮らせるまちづくり
- 互いが寄り添い、支え合う優しいまちづくり

経堂地区

- 安心・安全のためにみんなで備えるまち
- ご近所の顔が見え、互いを思いやるやさしいまち
- 活気があり、緑豊かできれいな環境を保つまち

上町地区

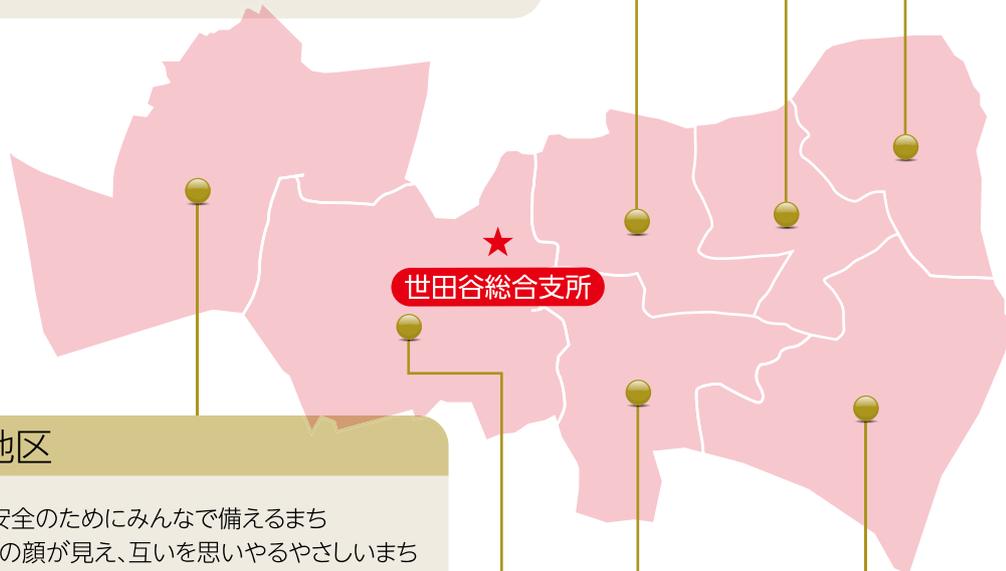
- 安全・安心、誰もがいつまでも住み続けたいまちづくり
- つながり・活気、生き活きとしたまちづくり
- 『世田谷のボロ市』歴史・文化・伝統、次世代につなぐまちづくり

下馬地区

- 緑豊かで安全・安心なまち
- 誰もが健やかに暮らせるまち
- みんなが集いふれあうまち

上馬地区

- 災害時に助け合える安全・安心なまち
- 高齢者と子どもにやさしいまち
- みどりが多く環境のよいまち



地区におけるまちづくり活動の目標〈地区ビジョン〉

世田谷

池尻地区〈池尻、三宿〉※

- 災害に強い助け合いのまち
- 犯罪のない安全安心のまち
- 支えあいのやさしいまち

池尻地区は、人びとが住み、集い、交流するまちとして、ともに安全・安心に豊かに暮らせるまちをめざします。

大地震等災害に対しては向う三軒両隣の助け合いが、犯罪のないまちには多様な団体のネットワークが、また、高齢者や要介護者の支援には地区の支えあいが、欠かせません。このように、人びとが助け合い、多様なコミュニティが相互に連携するまちづくりを進めます。



池尻地区キャラクター
みいけ

太子堂地区〈太子堂、三軒茶屋〉

『住んでよかったまち太子堂・三軒茶屋』から、『住み続けたいまち太子堂・三軒茶屋』へ

- 教訓を活かした安全・安心の基盤づくり
- 多世代交流による太子堂・三軒茶屋の元気づくり
- 自分のまち、太子堂・三軒茶屋を好きになる環境づくり

都市型震災に備え、災害に強い街づくりを進めるため、自助、共助の意識を高め、いざというときに助け合えるコミュニティを育みます。

自主的な区民参加、活動に支えられているまちをめざして、まちづくりの担い手の育成や持続的なネットワークづくりを進めます。

まちの緑化を進めるとともに、太子堂・三軒茶屋らしい歴史・文化・産業を育み、未来につなげます。



太子堂地区キャラクター
太子丸

※地区は、出張所・まちづくりセンターの管轄する27の区域。〈 〉内は町名。

地区におけるまちづくり活動の目標〈地区ビジョン〉

世田谷

若林地区〈若林、三軒茶屋〉

- 未来を担う若い世代を育み、笑顔がはじけるまちづくり
- 誰もが助け合い、安心安全で心豊かに暮らせるまちづくり
- 互いが寄り添い、支え合う優しいまちづくり

子育て世代や青少年の誰もが、笑顔で積極的にまちづくり事業に参画でき、次のまちの担い手となれるよう、町会や学校など様々な団体間の情報共有化を進め、健全で魅力ある環境を創出します。

来るべき大震災などの災害時や身近に起こりえる犯罪などの緊急時に対応できるよう、まちのみんなが防災・防犯に対する知識やスキルを向上させ、お互いが協力し助け合えるような態勢を強化するとともに拡大させていきます。

介護予防と健康づくり施策の効果的な事業連携を推進します。また、様々な団体による支えあいや見守り活動を連携により展開し、まちの誰もが信頼しあえる心優しいまちづくりを推進します。



若林地区キャラクター
わかゆちゃん

上町地区〈世田谷、桜、弦巻〉

- 安全・安心、誰もがいつまでも住み続けたいまちづくり
- つながり・活気、生き生きとしたまちづくり
- 『世田谷のポロ市』歴史・文化・伝統、次世代につなぐまちづくり

実践的な防災対策と防犯対策に積極的に取り組み、生涯を通して安全で安心して住み続けられるまちをめざします。

「人とのふれあい・つながり・思いやり」など住民同士の交流や絆を大切にするとともに、若者の地域参加や商店街の活性化を図り、イキイキと活気のあるまちをめざします。

大場家代官屋敷（国重要文化財）と世田谷のポロ市（都無形民俗文化財）に象徴される歴史や文化のまちとして、ポロ市を継承しながら、まちの活性化と地域住民の交流の場となるまちをめざします。



上町地区キャラクター
代官ホタルン

地区におけるまちづくり活動の目標〈地区ビジョン〉

世田谷

経堂地区〈経堂、宮坂、桜丘〉

- 安心・安全のためにみんなで備えるまち
- ご近所の顔が見え、互いを思いやるやさしいまち
- 活気があり、緑豊かできれいな環境を保つまち

経堂・宮坂・桜丘で生活していて心が安らぎ、住み続けたいと思えるまちであるためには、子どもからお年寄りまで誰もがいきいきと暮らせる環境・態勢を作っていかなければなりません。日頃からの人と人とのつながりや人を思いやる気持ちが災害時にも大きな力となります。現在、地域活動の基盤となっている町会を中心に、より多くの地域住民や地域活動団体がつながっていくために、さまざまな機会をとらえ交流し、絆を強めていきます。



経堂地区キャラクター
お経ちゃん

下馬地区〈下馬、野沢〉

- 緑豊かで安全・安心なまち
- 誰もが健やかに暮らせるまち
- みんなが集いふれあうまち

公園や緑道にある花壇の育成管理等を通じて、花による緑化を推進するとともに、防犯パトロールや清掃活動等を通じて、地区全体を大勢で見守り、犯罪のない明るく美しいまちをめ

ざします。

また、実践的な避難所運営訓練等を繰り返し行うことにより、協力態勢を構築し、災害に強いまちをつくりま

す。学校、保護者、地域住民が一体となって、子どもたちの健やかな成長を育むとともに、健康増進に関する活動やイベントを通じて、誰もがいつまでも元気でいきいきと暮らせるまちをめざします。



下馬・野沢地区キャラクター
しものざワン

子育て支援や高齢者等の見守り活動など、お互いに支えあい、ふれあう活動を促進し、地域住民の交流を深め、挨拶と笑顔があふれるまちをめざします。

上馬地区〈上馬、駒沢〉

- 災害時に助け合える安全・安心なまち
- 高齢者と子どもにやさしいまち
- みどりが多く環境のよいまち

各種団体のネットワークを強化し、災害時に助け合えるまちをめざします。高齢者や子どもたちを地域全体で見守り支えあうやさしいまちを作っていくとともに、まちの緑化を進め、あらゆる世代が交流できる活気あるまちをめざします。



上馬地区キャラクター
かみじいさん



三軒茶屋から見た街並みと桜丘の農地



世田谷アートタウン三茶de大道芸の様子



430年を超える歴史を持つ
世田谷のポロ市

北沢地域



■面積:8.645km²

■人口

	平成26年 (2014年)		推 計	
	区全体	地域	平成30年 (2018年)	平成35年 (2023年)
総 数	867,552人	144,287人	138,442人	135,646人
年少人口 (0～5歳)	42,699人 (4.9%)	5,367人 (3.7%)	5,160人 (3.7%)	4,922人 (3.6%)
年少人口 (6～14歳)	57,378人 (6.6%)	7,421人 (5.2%)	7,621人 (5.5%)	8,055人 (5.9%)
生産年齢人口 (15～64歳)	597,907人 (69.0%)	102,453人 (71.0%)	95,972人 (69.3%)	93,643人 (69.0%)
高齢者人口 (65歳～)	169,568人 (19.5%)	29,046人 (20.1%)	29,689人 (21.4%)	29,206人 (21.5%)

※平成26年1月1日現在の住民基本台帳人口及び世田谷区将来人口の推計(平成26年2月)

※推計値は表示単位未満を四捨五入しているため、総数と年齢階層別人口の合計が一致しない場合がある。

地域の特性

地域のなりたちと姿

北沢地域は区の北東部に位置して、南北に環状7号線が通っています。小田急線、京王線、井の頭線、世田谷線の鉄道の結節点となっている下北沢、明大前、下高井戸、豪徳寺などの駅は駅前商業地として商店街が形成されています。

明治期に「代沢茶」と呼ばれた茶栽培に代表されるように、北沢地域は純農村の姿をとどめていましたが、大正から昭和にかけての私鉄の開通や、関東大震災の後、旧世田ヶ谷町などの東部地域に都心からの移転により人口が急増し、郊外住宅地へと大きく姿を変えていきました。

昭和の初期から昭和10年代の北沢地域の基盤整備は、区画整理や耕地整理に加えて、旧松沢村全村に及ぶような面的な建築線指定によっても行われました。その結果、現在でも良好な住宅地として残されているところが多くなっています。

戦後の人口急増の中で、木造賃貸アパートの増加など、太子堂・北沢など区の東部地域は、木賃アパートベルト地帯*に組み込まれ、災害に弱い密集市街地となりました。このため、現在、北沢3・4丁目などの地区において災害に強いまちづくりに取り組んでいます。

地域には、室町時代の世田谷領主・吉良氏が築いた館の一部が世田谷城趾公園として残り、館跡は井伊家の菩提寺である現在の豪徳寺であるといわれています。また、勇壮な神輿が見られる北澤八幡や代田八幡神社の祭、大きな天狗が下北沢を練り歩く天狗まつり、区の指定無形文化財である代田の餅つきや森巖寺の針供養など、古い伝統と歴史が残されています。

暮らしの姿

北沢地域は、桜上水・赤堤地区などにわずかに農地が残されていますが、ほとんど市街化されており、みどり率も世田谷地域に次いで少ない状況です。大規模な住宅団地も少なく、住宅建替えにあたっては、大きな敷地はマンションに、小さな敷地は更に小分けされた戸建になる傾向にあります。

人口は減少傾向にありましたが、平成26年(2014年)1月1日現在、約14万4千人と増加に転じましたが、10年後(平成35年/2023年)は約13万5千人と減少が想定されています。地域には、今後全学年が単学級で推移することが見込まれる小学校があり、学校の統合と学校跡地の活用の検討が進められています。

高齢化は他の地域に比べて高く、介護保険の認定者は、約6千人と増加傾向にあります。地域では、ミニデイやサロン、自主活動グループによる高齢者に対する活動も活発です。梅丘地区では、高齢者の見守り活動に取り組んでいます。また、都立梅ヶ丘病院跡地では、全区的な保健・医療・福祉の拠点施設が整備される予定です。

下北沢駅周辺では、小田急線の連続立体交差事業等に合わせた街づくりが進められており、小田急線の地下化や井の頭線の改良工事、駅前広場の整備などにより駅周辺の風景は、今後大きく変わります。また、京王線の連続立体交差事業も予定されており、明大前駅をはじめ、各駅周辺の街づくりが進められていきます。

にぎわいと地域の活動

地域の事業所は約4千9百か所、従業者数約3万7千人になります。事業所は下北沢駅周辺の集積が大きく、明大前や下高井戸駅周辺にも集積が見られます。商店の売上げは下北沢駅周辺地区で地域の商品販売額の約半数を占めています。

下北沢は、飲食店や商店のみならず、劇場やライブハウス、古着や骨董など特色のある店も多く、1年を通して音楽祭や演劇祭、伝統的な祭りなどの多くのイベントが開催され、若者をはじめ多くの人々が訪れる街となっています。

北沢地域の町会加入率は約78%と区の平均約57%を大きく上回っています。他の地域と比較し、地震の際の危険度の高い地区も多く、町会・自治会は要援護者支援やスタンドパイプの整備など、防災や防犯活動に熱心に取り組んでいます。

北沢地区では「シモキタクリーン作戦」や「落書き消し隊」など地区の環境美化、青少年の健全育成などにさまざまな団体が一体となって取り組んでいます。

梅まつりが開催される羽根木公園は、長い歴史をもつ「雑居まつり」や子どもが自由に遊ぶ「プレーパーク」発祥の地であり、北沢地域はボランティア活動や福祉関係のNPOの活動が活発な地域でもあります。また、「健康まねきの会」の活動や、新代田地区の「まちぐるみ運動会」など、地域の中でいつまでも健康でいきいきと暮らす取組みが進められています。

まちの将来像

ともに支えあい、絆をはぐくみ、健康を招くまち

- 隣近所、町ぐるみで常日頃からの協力、支援体制を強化します。
- 町会・自治会、商店街、さまざまな協議会、実行委員会などの連携により、要援護者支援、高齢者の見守りネットワークなど区民主体の活動を推進します。
- 都立梅ヶ丘病院跡地の保健・医療・福祉の拠点施設の整備に合わせ、地域との連携を図り、高齢者や障害者など誰もが住みなれた地域で生き生きと暮らせるようにします。
- 「きたざわ健康まねきの会」とともに、「健康きたざわプラン」を推進します。
- 児童・障害者・高齢者などの虐待やDVのない地域づくりに努めます。
- 地域包括ケアシステムの構築に取り組みます。

モダンと伝統が織りなす、若さとにぎわいのあるまち

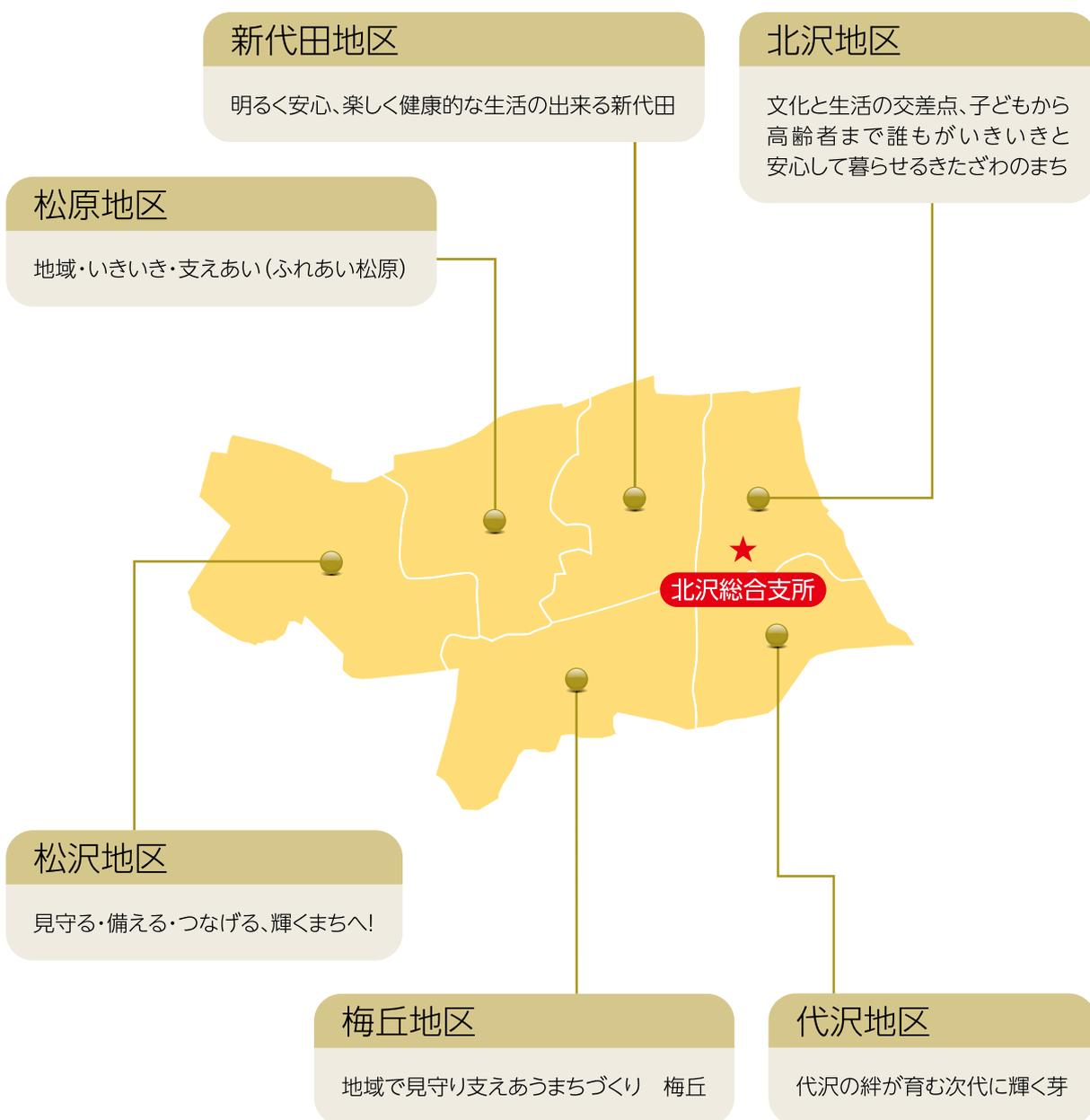
- 区民主体・区民参加のイベントや区民相互のネットワークづくりの連絡会などの活動を支援し、コミュニティ形成、連帯意識の醸成に努めます。
- 子どもを育む地域活動の支援や活動団体の交流など、次代を担う子どもたちを育てます。
- 外国人などの来街者が気軽に街を楽しむような「まちなか観光」の取組みを進めます。

- 区民の活動を支援する区民利用施設を整備します。

災害に強く、安全で住みよいまち

- 小田急線の連続立体交差事業、井の頭線改良工事などに合わせ、地域の方々とともに各駅周辺街づくりを進めます。
- 地下化された小田急線の上部は、防災とみどりの機軸となる空間として整備します。
- 下北沢駅周辺は、駅前広場や道路の整備により、にぎわいのある安全で安心の空間として整備し、街に新たな魅力を創り出します。
- 京王線の連続立体交差事業に合わせ、都市計画道路や駅前広場の整備、駅周辺街づくりを進めます。
- 災害に強い街づくりの進展に合わせ、不燃化特区制度*の活用などにより、防災街づくりを進めます。
- 町会・自治会の地区防災力の向上を支援し、初期消火、避難所運営などに素早い対応が図れるようにします。
- 防災・防犯、安全・安心の地域・地区づくりを進めます。
- 大学と連携し、防災時の対応や街づくり、地域の活性化などに取り組みます。
- 残された貴重な農地を保全するとともに、みどりの創出に努めます。

地区ビジョン



地区におけるまちづくり活動の目標〈地区ビジョン〉

北 沢

梅丘地区〈代田、梅丘、豪徳寺〉

地域で見守り支えあうまちづくり 梅丘

地域の誰もが孤立せず、求めているときに必要な支援が受けられるよう、相談機関、地域団体、近隣住民が繋がり、相互に顔の見えるネットワーク（地域の絆）づくりをめざします。

代沢地区〈代沢、池尻〉

代沢の絆が育む次代に輝く芽

代沢で育まれてきた地域の絆を活かし、子どもの成長を見守ると共に、世代を超えた人々との交流や地域活動、代沢地区に根付いている伝統・文化・自然環境と触れ合う機会を多く体験させることで、地域に愛着を持った代沢の次代を担う子どもを育てていくまちをめざします。

新代田地区〈代田、羽根木、大原〉

明るく安心、楽しく健康的な生活の出来る新代田

外に出て体を動かすことなどを通じて、仲間や顔見知りが増え、より多くの住民同士が顔の見える、いつまでも楽しく安心して住み続けられるまちをめざします。

北沢地区〈北沢〉

文化と生活の交差点、子どもから高齢者まで誰もがいきいきと安心して暮らせるきたざわのまち

文化と生活が交差している環境を踏まえ、子どもから高齢者まで、誰もの心が触れ合い、気軽に挨拶をかわし互いに見守りながら安全で誰もがいきいきと安心して暮らしているまちをめざします。

松原地区〈松原〉

地域・いきいき・支えあい
(ふれあい松原)

地域活動を充実させながら、住民同士の日ごろからのつながりを深めていきます。また、住民が互いに高齢者の支え合い活動に取り組むことにより、相互扶助への気運を高め、誰もが安心して元気に暮らせるまちをめざします。

松沢地区〈赤堤、桜上水〉

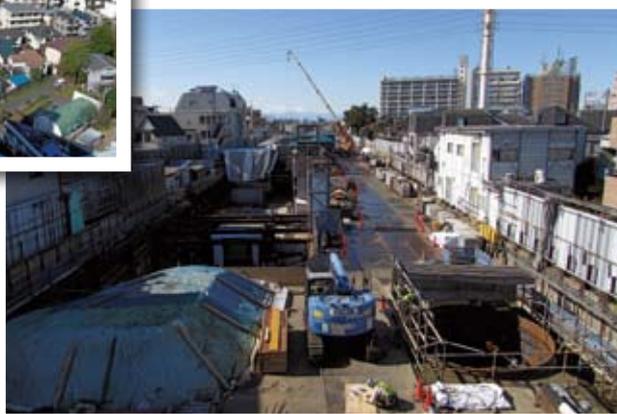
見守る・備える・つなげる、輝くまちへ！

地域・住民が互いに助け合い、支えあい、挨拶を交わし見守るやさしいまち。災害に備え、安全で安心して暮らせるまち。子どもから高齢者まで、世代を超えて楽しく交流できる思いやりあふれる輝くまちをめざします。



小田急線

北沢タウンホールから
新宿方面（地下化前）



世田谷代田駅付近から
小田原方向（地下化後）



下北沢音楽祭



春の北沢川緑道



”北沢健康まねきの会”
のキャラクター